



URL <https://kanagawanet.org/>

子どもと家族のための時間を

6月28日、神奈川ネット主催「共に生きる学習会」で、「横浜子どもホスピスうみとそらのおうち」を見学しました。

小室たかえ(ネット横須賀/市議)

3 すべての人に健康と福祉を



「横浜子どもホスピスうみとそらのおうち」



遊びホール



庭にある大人気のブランコ



大人と一緒に料理できるキッチン



車イスのまま使えるテーブル



家族で入れる大きなお風呂



お日様を感じるみんなのホールでワークショップ

「うみとそらのおうち」は2016年がん対策基本法改正時に緩和ケアが位置づけられ、横浜市の「生命を脅かす病気の子どもと家族の療養生活支援施設整備運営事業者」に選定され、2021年秋に完成した施設です。

まず、この施設を紹介したテレビ番組を視聴した後、設立・運営を行うNPO法人横浜子どもホスピスプロジェクト代表の田川尚登さんから話を伺い、施設内を見学しました。河口近くに建つ2階

PMワークショップ

津久井やまゆり園事件へのメッセージから、横浜市緑区の「NPO 法人ぷかぷか」の利用者の笑顔が溢れる毎日と、演劇を通してメッセージや啓発をされている映像を視聴しました。映像は明るく楽しい場面が多く、利用者の保護者も二人参加され、視聴後3グループに分かれて、感じたことを5.6行の詩にしました。自分の詩を1行ずつ切り取り、一緒に合わせて順番を考えながら新たに1つの長い詩を作りました。それぞれのグループが皆さんの前で音楽と共に読み上げ、お互いに感想を述べあいました。参加者の詩はとても穏やかなものでした。

私自身、最重度知的障害者の親なので、映像のお子さんは文字が書けて発言できるため啓発を託したい気持ちになり、詩も必然とそういうものになってしまいました。

しかしながら、本人たちの啓発には限界があり、今日また帰ってきたら暴れるかもと不安な毎日を過ごす家族もいます。目を背けたくなる現実も見たい、実際に会って感じてほしい、そうでなければともに生きることはできない、そういう思いが強くなったワークショップでした。

鈴木亜紀子(ネット平塚)



好きな遊びをして「あー、楽しかった」とは、看護師と保育士を配置し、子どもは治療だけではない、子ども本人と家族の生活の質の保障は大事です。ここでは、看護師と保育士を配置し、子どもは好きな遊びをして「あー、楽しかった」と

子どもは重い病気であっても日々成長の過程にあり、育つ権利が保障されなければなりません。ところが、実際は治療により免疫力が低下していることから学校などに通うことができず、家庭と病院だけの生活になっていきます。WHOによると小児緩和ケアとは、身体的・心理的・社会的、またスピリチュアルな要素も含む全人的なケアで、家族支援も含むとしていきます。それは診断時に始まり、家族支援は死別後も続きます。

日本には15万人いると言われる難病の子どものうち、生命を脅かされる病気の子どもは2万人とも言われ、早期の死を免れることが困難な病気(総称LTC)の子どもの安心して家族と利用できるのが、子どもホスピスです。

子どもは重い病気であっても日々成長の過程にあり、育つ権利が保障されなければなりません。ところが、実際は治療により免疫力が低下していることから学校などに通うことができず、家庭と病院だけの生活になっていきます。WHOによると小児緩和ケアとは、身体的・心理的・社会的、またスピリチュアルな要素も含む全人的なケアで、家族支援も含むとしていきます。それは診断時に始まり、家族支援は死別後も続きます。

子どもは重い病気であっても日々成長の過程にあり、育つ権利が保障されなければなりません。ところが、実際は治療により免疫力が低下していることから学校などに通うことができず、家庭と病院だけの生活になっていきます。WHOによると小児緩和ケアとは、身体的・心理的・社会的、またスピリチュアルな要素も含む全人的なケアで、家族支援も含むとしていきます。それは診断時に始まり、家族支援は死別後も続きます。

子どもは重い病気であっても日々成長の過程にあり、育つ権利が保障されなければなりません。ところが、実際は治療により免疫力が低下していることから学校などに通うことができず、家庭と病院だけの生活になっていきます。WHOによると小児緩和ケアとは、身体的・心理的・社会的、またスピリチュアルな要素も含む全人的なケアで、家族支援も含むとしていきます。それは診断時に始まり、家族支援は死別後も続きます。



県議会だより

市民の声が届く政治を



佐々木ゆみこ (ネット宮前/県議)

6月に梅雨が明け、夏日が続く参議院選挙の幕開けでした。選挙期間中の反応は、決して良いとは言えず、政治に対して市民は期待すら持っていないと思える時もありました。しかし、選挙期間中に起きた銃撃事件から関心が高まり、投票率は微増となりました。

選挙は民主主義の根幹であると、常に言われます。しかし、国会はじめ地方議会においても、どれだけの民意が政治の場に反映され、市民の声が届いているのかと思うことがあります。民主主義は、決定まで時間がかかります。それは議論を重ね、互いの着地点を探り合うことを大切にしているからです。それを多数決で強行して結果を出し、議論を遠ざけていることが、政治への信頼を崩していると考えます。

参議院選挙は、都道府県単位の選挙区と全国比例から議員が選ばれます。しかし、全国比例は大きな組織の代表や知名度の高い人が選ばれている現状があり、特定の人のための政治になっていないでしょうか。

今回の選挙で、与党は憲法改正発議に必要な議席を確保しました。だからこそ、神奈川ネットは、方針に掲げた平和を不可欠な礎として、政治の場に多様性を持ち込み、現場からの声を活かし、市民の持つ可能性を活かす政治にしていこうと取り組んでいきます。

一人ひとりが持つ1票の重みは等しくあるべきですが、そればかりに囚われることにも疑問を感じます。地域の課題を代表して議論の場に持つのが議員であるならば、選挙区のある方も議論が必要で

来年度の統一地方選挙にむけて、神奈川県でも選挙区の見直しが行われました。また衆議院選挙の区割り変更案も出ています。地域の声の代弁者である議員が議論を交わす議会にしていくことも含め、さらなる政治改革について提案を続けていきます。